

# インドにおける農業保険の普及に関する実証分析

尾崎 寛幸（国際開発学分野）

## 【目的】

開発途上国における旱魃や大雨、洪水等の天候不順、虫害、病害などによる農産物の損失は、農家にとっての大きな経済的リスクである。このようなリスク回避手段の一つとして、近年、農業保険が開発途上国において注目され、商業的にも広まりをみせている。農産物損失による農家の自殺が社会問題にもなっているインドにおいては、政府が保険料の一部を負担するなかで、農業保険の拡大を推進している。しかし、近年のレポートでは予測に反して保険加入率が伸びていないことが報告されている（Cole, Bastian, Vyas, Wendel and Stein 2012）。

本稿においては、インドの農業保険の拡大について農業保険スキームの仕組みや州ごとの属性など、マクロなデータを用いて保険拡大の成功及び失敗要因について明らかにすることを目的とする。

## 【方法】

まず初めに、インドの農業保険の普及自体にどのような意義があるかを確かめるため、先行研究及びに筆者が 2016 年に Agricultural Insurance Company of India(AIC) に対して行ったインタビューをもとに、インドでの農業保険の社会的位置付けについてまとめる。次に、農業保険加入率については州・連邦直轄領ごとに大きな差異があることを確認した上で、州・連邦直轄領ごとの農家の農業用ローン利用、農業者賃金、識字率、雨量と農業保険加入率の関連性について、AIC へのインタビュー内容と先行研究から農業保険普及の阻害要因について考察しつつ、実証分析を行う。

## 【分析結果】

インドの農業保険の社会的位置づけとしては、政府と民間企業が連携して推し進める社会保障としての性質があり、その普及が、単なる保険会社による利潤追求の手段としてではなく、農家の経済的なセーフティネット拡充のために重要な意味を持つことが明らかになった。

また、農家の農業用ローン利用と年間雨量については農業保険加入率と正の相関があり、農業者賃金と識字率には負の相関がみられた。

## 【結論】

先行研究において農家個人の農業保険加入意思と正の相関がみられた農家の所得については、インドの州・連邦直轄領ごとの普及を考えるに当たっては逆の相関がみられ、これは貧困農家が多い地域においては、地方政府の農業保険を拡大させようというインセンティブが強いためだと考えられる。農業用ローンを利用した農家は農業保険にも強制加入になるという「強制加入ルール」が、農業保険普及に大きな役割を果たしているが、実情としては州・連邦直轄領ごとに「強制加入ルール」に実施状況に差があり、そのルールを銀行の担当者に認識、実施させることが普及拡大につながるであろう。